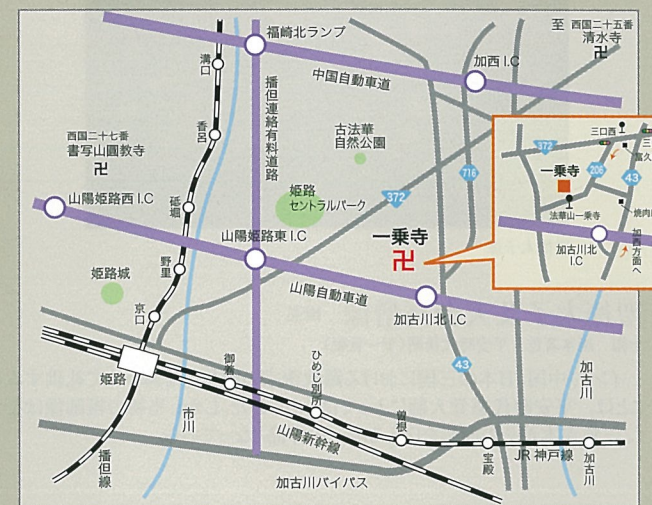




本堂



■交通案内

- ・姫路駅から神姫バス、法華山一乗寺経由 社(やしろ)行きにて「法華山一乗寺」バス停にて下車(所要約35分、一日5便)
- ・山陽自動車道加古川北ICを出て左折、三口交差点を左折、三口西交差点を左折直進し当山(所要約12分) ※駐車場あり

西国第二十六番札所

法華山一乗寺

〒675-2222 兵庫県加西市坂本町 821-17
TEL 0790-48-2006 (本坊)・4000 (納経所)
FAX 0790-48-3848 (本坊)

Ichijyo-ji Temple

法華山 一乗寺

西国廿六番



船師、都に入りこの由を奏したところ、孝徳天皇は大いに御感あらせられた。その後天皇が御病氣の際、仙人を宮中に召し玉体を加持せしめたところ、御病氣忽ちに平癒した。法道仙人を御慕いになった天皇は法華山に金堂を建立し、白雉元(六五〇)年落成して臨幸せられ、法華山一乗寺の勅額を賜い、道慈律師をもつて供養し、鎮護国家の道場とされた。

永延二年(九八八)花山法皇御幸あらせられ、金堂を大悲閣と命名され、西国第二十六番札所と定め給い、「春は花夏は橘秋は菊いつも妙なる法の華山」と御詠あり、以後永く巡礼の霊場となった。

◆年中行事

- ・一月一日 初詣
- ・一月十八日 修正会
- ・三月二十四日 春彼岸会
- ・四月二十四日 定例宝物拝観日
- ・五月八日 花祭大祭
- ・十一月五日 定例宝物拝観日

縁起

法華山一乗寺は白雉元(六五〇)年法道仙人の開山、孝徳天皇の勅願による官刹であった。仙人はインドより紫雲に乗じて中国朝鮮を経て、谷は蓮華の如く峰は八葉に分かれた当山に降り止まり、山を法華山と名づけた。

仙人は観世音菩薩像と鉄鉢と仏舎利のみ持ち、飛鉢の術をもつて供養を乞うた。ある時播磨灘をゆく船に鉢が飛んだが、大宰府の船師藤井麻呂は、この船荷は正税であると号して供養を拒んだ。すると船中の米俵は一つ残らず群鴈の如く当山に飛来した。船師が驚き当山を訪ね悔謝して憐みを乞うと、仙人は一鉢の米を残して皆船中に返した。



聖観世音菩薩像
重要文化財
御前立本尊 白鳳時代

本堂(金堂、大講堂、大悲閣) 重要文化財

桁行九間、梁間八間 入母屋造 江戸時代

初代の本堂(金堂)は白雉元(650)年孝徳天皇の勅願によって創建された。二代目の本堂は建武二年(1335)、後醍醐天皇の勅願で再建され大講堂と呼ばれた。三代目は大永三年(1523)兵火による焼失の後、永禄五年(1562)守護赤松義裕公により建立された。四代目の今の本堂は、元和元年(1617)の焼失によって、寛永五年(1628)姫路藩主本多美濃守忠政公によって建立された。

平成十一年から二十年に至る間、災害復旧工事に続いて半解体大修理工事が行われた。中世仏堂形式の近世初期の代表作とされる。

鐘樓 県指定文化財

袴腰付 入母屋造 江戸時代

寛永五年(1628)本堂と同じく本多美濃守忠政公により再建。下層が高く、上層が小さく姿よく造られている。「諸行無常 是生滅法 生滅滅已 寂滅為楽」と鐘銘された梵鐘の鋳造も同じ時と考えられる。



三重塔 国宝 平安時代

承安元年(1171)長吏法印隆西、一和上仁西の勧進により造立。同四年(1174)額田部武末の屋根瓦寄進によって完成。各層の通減が大きく安定感があり、三層の照りむくり、三手先の組物、左右二材を組み合わせた本葺股など平安様式の優美な古塔で我国和様建築の完成を示す。本尊は五智如来。



開山堂



常行堂

開山堂 宝形造 江戸時代

奥の院にあり、開山法道仙人を祀る。寛文七年(1667)の建立で、龍・獅子・竹に雀・紅葉に鹿・栗鼠に葡萄などの建築彫刻を施した上質の建物である。開山法道仙人像は人々の厚い信仰を得て、度々当堂で開帳されている。平成十年解体修理。

常行堂(阿弥陀堂) 明治時代

聖武天皇勅願建立。天文二十二年(1553)再建。明治初年再々建に着手、同十年上棟式。平成四年屋根葺替、内外陣を荘厳して完成。不断念仏・止観道場として使用。平成十一年から二十年三月まで仮本堂となった。



伝教大師像(天台高僧像のうち)

僧形座像 重要文化財

平安時代

鉢内に墨書銘があり、建久三年(1192)高野山新別所より迎えた事が判る。平安時代の彫刻で、弘法大師像と伝える。



法道仙人木像 重要文化財

鎌倉彫刻の手法をよく示し、特に写実性に富んだ名作。作者は快派の賢清。



聖徳太子像

聖徳太子及天台高僧像 国宝

十幅 絹本着色 平安時代後期(十一世紀)

インド、中国、日本の三国における顕教密宗の両祖師をあわせて礼供することは、平安時代慈覚大師によってはじめられた。しかし当初の祖師像はなく、一乗寺本がその面影を伝える唯一の作品となっている。



石造五輪塔 重要文化財 鎌倉時代

元享元年(1321)十月十七日、権律師阿弁の銘があり、梵字もしっかり刻まれた堂々たる作品。この外石造美術には、鎌倉時代の笠塔婆一基、石造宝塔二基がありいずれも県指定文化財。



地藏院

一乗寺本坊 庫裡 江戸時代

天平五年(733)創立。本尊阿彌陀如来。永禄五年(1562)地藏院主永巖、播磨国主赤松義祐公より一山の所有地の公祖を国免する寄付状を受く。同状並びに尼子・池田の安堵状を所蔵。

地藏院主亮昌は正徳六年(1716)に護法堂、弁天堂、妙見堂を修理しており、地藏院の再建も亮昌の時代になされたと推測される。地藏院庫裡はその表門とともに十八世紀初めの大切な建物である。



法輪堂(経蔵) 寶暦十二年(1762)

当山歡喜院の守拙慧納が十数年間の托鉢により、当堂を建立し、誰でもこれを回せば仏道の勝縁に預る輪蔵を設け、黄瑩版一切経を納めた。輪蔵の創始者である梁の善慧大師傳翕とその二子翕建翕成の像も安置した。平成十年屋根葺替。

行者堂 江戸時代 寛文年間

仁明天皇御願により創建、今の建物は寛文年間の再建である。役行者及び前鬼後鬼の木像を祀る。当山の護摩供の道場。平成十一年解体修理。

鎮守諸堂 重要文化財

護法堂 一間社隅木入春日造 鎌倉時代

仏法守護の毘沙門天を祀る。

弁天堂 一間社隅木入春日造 室町時代

弁才天は福德、除災、得勝、音楽などを司る。

妙見堂 三間社流造 室町時代

国土守護、災害滅除、福寿増長の妙見菩薩を祀る。

三社の創建は孝謙天皇の勅願に依る。中世の神社建築の様式の変遷を伝える貴重な建物である。



護法堂



妙見堂(右)、弁天堂(左)